禁無断複写・無断転載

第150回　日商簿記検定試験　１級　－原価計算－　解　説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第１問　予算編成（全部標準原価計算）

問１　Ｘ製品の原価標準（製品１個当たりの標準製造原価）

標準原価カード（X製品）

直接材料費	48円/kg	×	5kg	＝	240円
変動加工費	40円/時間	×	2時間	＝	80円
固定加工費	112円/時間	×	2時間	＝	224円
					544円

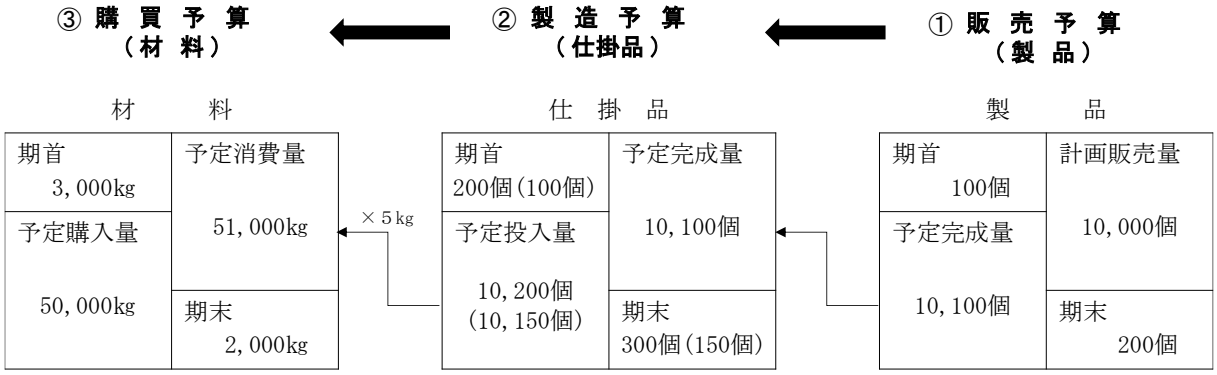
（※１）基準操業度：10,500個×２時間/個＝21,000時間

（※２）変動加工費配賦率：840,000円÷21,000時間＝40円/時間

（※３）固定加工費配賦率：2,352,000円÷21,000時間＝112円/時間

問２　主材料の年間購買予算

予算案の編成は次の手順で行われる。また、本問における生産データは以下のとおりである。



（　）内の数量は加工換算量を示している。

主材料年間購買予算：50,000kg(予定購入量)×48円/kg＝**2,400,000円**

問３　売上原価予算の編成

直接材料費	**2,448,000円**	→ 240円/個×10,200個
変動加工費配賦額	**812,000円**	→ 80円/個×10,150個
固定加工費配賦額	**2,273,600円**	→ 224円/個×10,150個
当期総製造費用	**5,533,600円**	
期首製品・仕掛品有高	**132,800円**	→ 240円/個×200個＋304円/個×100個
合計	**5,666,400円**	＋544円/個×100個(期首製品)
期末製品・仕掛品有高	**226,400円**	→ 240円/個×300個＋304円/個×150個
差引	**5,440,000円**	＋544円/個×200個(期末製品)
予定操業度差異	**78,400円**	→（10,150個－10,500個）×224円/個
売上原価予算	**5,518,400円**	

問４　販売費及び一般管理費予算

固変分解については変動費と固定費に分解しなければならないため、以下のように固変分解を行う。なお、販売費及び一般管理費（以下、販管費と略す）については総額を載せるのみとする。

⑴　生産データの整理

	販売量	販管費総額
20X8年度	9,900個	2,137,600円
20X7年度	10,500個	2,193,600円
~~20X6年度~~	~~8,800個~~	~~2,061,000円~~
20X5年度	9,000個	2,073,600円
20X4年度	9,400個	2,099,600円

⇒

最高/最低点の抜き出し

	販売量	販管費総額
最高点	10,500個	2,193,600円
最低点	9,000個	2,073,600円

※これ以外のデータは無視する。

※ 正常操業圏における販売量（この範囲を超えるものは除外して計算する）

最高点：10,500個×85%＝8,925個　　最低点：10,500個×100%＝10,500個

⑵　販管費総額と販売量の差から、変動費を計算する

$$\text{変動費率}：\frac{2,193,600\text{円}(\text{最高点の販管費総額})-2,073,600\text{円}(\text{最低点の販管費総額})}{10,500\text{個}(\text{最高点の販売量})-9,000\text{個}(\text{最低点の販売量})}=80\text{円/個}$$

⑶　変動費と販売量の関係から、固定費を計算する

①　最高点：2,193,600円(最高点の販管費総額)－10,500個(最高点の販売量)×80円/個＝1,353,600円(固定費)

②　最低点：2,073,600円(最低点の販管費総額)－9,000個(最低点の販売量)×80円/個＝1,353,600円(固定費)

販売費及び一般管理費の年間予算：80円/個×10,000個＋1,353,600円(固定費予算)＝**2,153,600円**

問５　予定売上高営業利益率

⑴　予算損益計算書の作成

予算損益計算書

売上高	8,000,000円	→ 800円/個(予算販売単価)×10,000個(年間計画販売量)
売上原価	5,518,400円	→ **問３**の解答より
売上総利益	2,481,600円	
販売費及び一般管理費	2,153,600円	→ **問４**の解答より
営業利益	328,000円	

⑵　予定売上高営業利益率：328,000円÷8,000,000円×100%＝**4.1%**

問６　全部（営業利益）と直接（営業利益）の差額

直接原価計算によった場合の予算損益計算書は以下のとおりである。

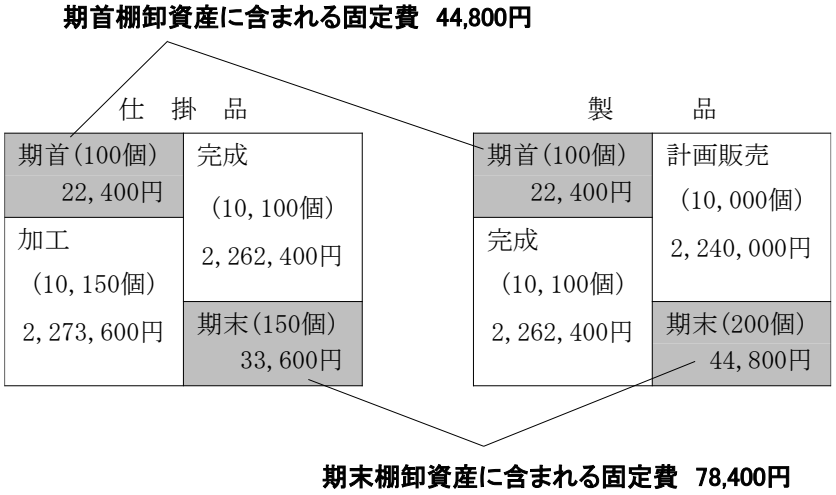
予算損益計算書

売上高	8,000,000円	
変動売上原価	3,200,000円	→ 320円/個(変動製造原価)×10,000個(年間計画販売量)
変動製造マージン	4,800,000円	
変動販売費	800,000円	→ 80円/個(変動販売費)×10,000個(年間計画販売量)
貢献利益	4,000,000円	→
固定費	3,705,600円	→ 1,353,600円(固定販売費予算)＋2,352,000円(固定加工費予算)
営業利益	294,400円	

全部（営業利益）と直接（営業利益）の差額：328,000円－294,400円＝**33,600円**

〔補足〕

全部原価計算の営業利益と直接原価計算の営業利益の差額は期首・期末棚卸資産に含まれる固定加工費の金額を求めればよい。以下に示すＢＯＸでは、固定加工費の金額のみを示す。



全部（営業利益）と直接（営業利益）の差額：78,400 円－44,800 円＝**33,600 円**

第２問　戦術的意思決定

⑴　資料の整理

来月に製品Ｙを 40,000 個、製造・販売した場合の生産・販売データは以下のとおりである。

損益計算書		損益計算書から読み取れるデータ
売上高	40,000 千円	→ 40,000 千円÷40,000 個＝1,000 円/個(販売価格)
変動製造原価	16,000 千円	→ 16,000 千円÷40,000 個＝400 円/個(単位当たり変動製造原価)
変動製造マージン	24,000 千円	
変動販売費	4,000 千円	→ 4,000 千円÷40,000 個＝100 円/個(単位当たり変動販売費)
貢献利益	20,000 千円	→ 20,000 千円÷40,000 個＝500 円/個(単位当たり貢献利益)
固定費		
製造原価	10,000 千円	→ 10,000 千円÷40,000 個＝250 円/個(単位当たり固定製造原価)
販売費及び一般管理費	2,758 千円	
営業利益	7,242 千円	

（ ① ）の解答　１個当たりの総製造原価：400 円/個＋250 円/個＝**650 円/個**

⑵　追加注文を引き受けた場合の営業利益

製品Ｙを１個当たり 500 円で購入したいという引き合いである。なお、変動販売費や追加的な固定費を生じないため、計算は以下のようになる。

営業利益増加額：500 円/個(注文価格)－400 円/個(変動製造原価)×4,000 個＝400 千円

（ ② ）の解答　追加注文を引き受けた場合の営業利益：7,242 千円＋400 千円＝**7,642 千円**

⑶　営業利益が増加する特別注文の最低価格

変動販売費や追加的な固定費の発生がないことを前提としているため、単位当たり変動製造原価である 400 円/個を超えれば注文を引き受けることにより営業利益は増加するといえる。

（ ③ ）の解答　**400 円/個(単位当たり変動製造原価)**

※ 問題文に「特別注文の価格が 1 個当たり（ ③ ）円を**超えれば**、注文を引き受けることにより営業利益は常に増加する…」とあるため、400 円/個と解答する点に注意すること。

（ ④ ）の解答　**差額利益**

※ 本問では戦術的意思決定（短期意思決定）を行っている。そのため、意思決定を行うにあたっては意思決定に関連するもののみを考慮すればよい。問題文の「475 円の価格での特別注文を 4,000 個引き受けた場合には、（ ④ ）は 300 千円なるので…」というところから、300 千円は特別注文により生じる項目のみを考慮した場合の利益であるため（ ④ ）に当てはまるのは「差額利益」と判断できる。

⑷　特別注文を引き受けた場合の売上高営業利益率

特別注文を引き受けた場合の損益計算書は以下のとおりである。

損益計算書

売上高	41,900 千円	→ 40,000 千円＋475 円/個×4,000 個
変動製造原価	17,600 千円	→ 16,000 千円＋400 円/個×4,000 個
変動製造マージン	24,300 千円	
変動販売費	4,000 千円	
貢献利益	20,300 千円	
固定費		
製造原価	10,000 千円	
販売費及び一般管理費	2,758 千円	
営業利益	7,542 千円	

（ ④ ）の解答　売上高営業利益率：7,542 千円÷41,900 千円×100％＝**18%**